

漢方医学	認定内科医	総合内科専門医
I. 知識.....		420
1. 漢方医学の身体観・診断・診察法		
1) 漢方医学の利点・欠点・適応	A	A
2) 診断（虚実・寒熱・六病位・気血水）	B	B
3) 診察法（四診：望診・聞診・問診・切診）	B	B
2. 漢方の副作用	A	A
II. 治療.....		420
1. 日常よくある疾患に対する薬物療法		
1) 急性上気道炎に対する漢方治療	B	A
2) 慢性胃炎・腹痛に対する漢方治療	B	A
3) 便秘異常（便秘・下痢）に対する漢方治療	B	A
4) アレルギー性鼻炎に対する漢方治療	B	A
5) 頭痛に対する漢方治療	B	A
6) 腰痛・膝関節痛に対する漢方治療	B	A
7) 排尿障害（排尿困難・尿失禁・乏尿・頻尿）に対する漢方治療	B	A
8) 不安神経症・不眠に対する漢方治療	B	A
2. 漢方薬の併用で効果の得られる疾患に対する治療		
1) 高血圧に対する漢方治療	C	B
2) 脂質異常症と糖尿病に対する漢方治療	C	B
3) 気管支喘息に対する漢方治療	C	B
4) 緩和ケアに対する漢方治療	C	B

漢方医学

■研修のポイント

漢方医学の身体観、診断および診察法の概要を学ぶ。日常よくある疾患〈common disease〉に対しての漢方治療を理解する。また、漢方治療の併用で効果を高められる疾患や漢方薬の副作用について理解する。

I. 知識

1. 漢方医学の身体観・診断・診察法

■到達目標

- ・漢方医学の持つ全人的包括的医療の利点について説明できる。
- ・漢方が適応となる疾患について説明できる。
- ・漢方が適応とならない疾患について説明できる。
- ・漢方医学的診断（証）について説明できる。
- ・虚実・寒熱について説明できる。
- ・急性疾患における六病位について説明できる。
- ・慢性疾患における気・血・水の異常について説明できる。
- ・漢方の診察法（四診）について説明できる。
- ・漢方医学的医療面接項目について説明できる。
- ・舌診を中心とした望診、腹診を中心とした切診について説明できる。

2. 漢方の副作用を説明できる

■到達目標

- ・漢方薬が生薬の組合せで一つの単位になっていることを説明できる。
- ・漢方薬とハーブ・民間療法との違いを説明できる。
- ・注意すべき生薬について説明できる。
- ・注意すべき漢方薬の使い方とその副作用とについて説明できる。（特に小柴胡湯などによる間質性肺炎、甘草による偽アルドステロン症）

II. 治療

1. 日常よくある疾患〈common disease〉に対する漢方治療

■到達目標

- ・急性上気道炎に対する漢方治療を病期の鑑別により適切に選択できる。
- ・慢性胃炎・腹痛に対する漢方治療を西洋医学的治療との相違を含め適切に選択できる。
- ・便秘に対して大黄を含む漢方薬と大黄を含まない漢方薬とを鑑別しながら適切に選択できる。
- ・下痢に対する漢方治療について芍薬を含む製剤とそれ以外とを鑑別しながら適切に選択できる。
- ・アレルギー性鼻炎に対する漢方治療を麻黄剤とそれ以外の鑑別も含め適切に選択できる。
- ・頭痛に対する漢方治療を適切に選択できる。
- ・腰痛、膝関節痛およびこむら返りなどの筋・骨格系に対する漢方治療について附子剤を含め適切に選択できる。
- ・排尿障害（排尿困難、尿失禁、乏尿、多尿）に対する漢方治療について附子剤を含め適切に選択できる。
- ・不安神経症と不眠との漢方治療を病態の鑑別から適切に選択できる。

2. 漢方治療の併用で効果を高められる疾患

■到達目標

- ・高血圧に対する漢方治療の適応を考慮した上で、西洋薬との併用で効果の期待できる漢方薬につき説明できる。

- ・脂質異常症と糖尿病に対する漢方治療の適応を考慮した上で、西洋薬との併用で効果の期待できる漢方薬につき説明できる。
- ・気管支喘息に対する漢方治療の適応を考慮した上で、西洋薬との併用で効果の期待できる漢方薬につき説明できる。
- ・緩和ケアにおける漢方治療の適応を考慮した上で、西洋薬との併用で効果の期待できる漢方薬につき説明できる。